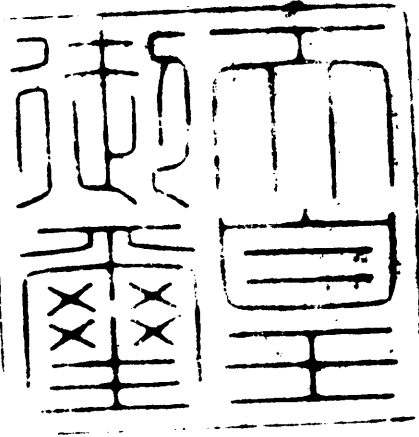


法律第七十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル日本發送電
株式會社法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

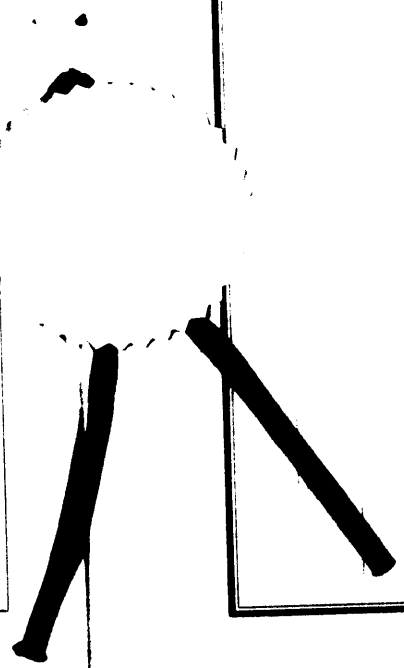
裕仁



昭和十三年四月五日

月

内閣總理大臣公爵
 近衛文麿
 逵信大臣
 永井柳太郎
 大藏大臣
 賀屋興宣



法律第七十七號

日本發送電株式會社法

第一章 總則

第一條 日本發送電株式會社ハ電力設備及其ノ附屬設備ヲ爲シ政府ノ管理ニ屬スル發電及送電ヲ行フコトヲ目的トスル株式會社トス

日本發送電株式會社ハ主務大臣ノ命令ニ依リ又ハ其ノ認可ヲ受ケ前項ニ定ムルモノノ外附帶業務ヲ營ムコトヲ得

第二條 日本發送電株式會社ノ存立期間ハ設立登記ノ日ヨリ五十年トス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第三條 日本發送電株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、

帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人若ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限り之ヲ所有スルコトヲ得

第二章 出資

第四條 政府ハ電力管理法第三條ノ規定ニ依ル勅令ノ定ムル電力設備及其ノ附屬設備ヲ本章ノ規定ニ依リ日本發送電株式會社ニ對シ出資セシムルコトヲ得

第五條 政府ハ前條ノ電力設備及其ノ附屬設備ヲ日本發送電株式會社ニ出資セシメントスルトキハ出資セシムベキ設備及出資ノ期日ヲ公告スベシ

前項ノ場合ニ於テハ政府ハ日本發送電株式會社及當該設備ノ所

有者ニ其ノ旨ヲ通知スベシ

第六條 前條第一項ノ通知ノ後出資ノ目的タル設備ノ所有者當該設備ノ現状ヲ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第七條 第五條第二項ノ通知ノ後ハ出資ノ目的タル設備ノ所有者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ當該設備ヲ讓渡シ又ハ當該設備ヲ新ニ所有權以外ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ズ

第八條 政府ハ日本發送電株式會社ニ對シ國有ノ電力設備及其ノ附屬設備ヲ出資スルコトヲ得

第九條 出資ノ目的タル設備ノ價格ハ左ノ各號ノ金額ノ和ノ二分ノ一ニ相當スル金額ニ依リ之ヲ算定ス

一 當該設備ノ建設費ヨリ減價額却金額ヲ控除シタル金額

二 當該設備所有者ノ過去十年間ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ平均割合ヲ出資設備ノ建設費ニ乘ジタル金額ヲ一定ノ利率ヲ以テ還元シタル金額

前項ノ建設費、減價額却金額及益金ハ軍力評價審査委員會ノ議ヲ經テ主務大臣之ヲ決定ス

第一項第二號ノ一定ノ利率ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第十條 軍力評價審査委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 日本發達電機株式會社ハ出資ノ目的タル設備ノ所有者ニ對シ第九條ノ規定ニ依リ決定シタル價格ニ相當スル株式金額ノ全額拂込株式ヲ割當ツベシ但シ當該株式一株ノ金額ニ滿タザ

ル部分ニ對シテハ金額ヲ以テ支拂フベシ

出資ノ目的タル設備ニ變更アリテ其ノ變更部分ニ付株式割當ノ日迄ニ價格決定セザルトキハ當該部分ニ對シテハ金額ヲ以テ決斷スルコトヲ得株式割當後變更ヲ生ジタル部分ニ付亦同シ

第十一條 出資ノ目的タル設備ハ日本發達電機株式會社ノ設立又ハ増資ノ登記ノ時ニ於テ日本發達電機株式會社ニ出資セラレタルモノト有做ス

第十三條 第九條ノ規定ニ依ル出資價格ニ付不服アル出資者ハ同

條第二項ノ規定ニ依ル決定ノ通知アリタル日ヨリ一月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條ノ規定ニ依ル出資價格ガ通常裁判所ノ決定シタル價格ニ

達セザルトキハ其ノ差額ハ日本發送電株式會社ノ設立又ハ増資ノ登記ノ日以後ニ於テ金繰ヲ以テ之ヲ支拂フベシ

第十四條 電力設備及其ノ附屬設備ヲ出資シタルニ内リ殘存電氣事業ヲ繼續スルコト能ハザルニ至リタルトキハ出資者ハ日本發送電株式會社ニ對シ當該事業設備ノ買收ヲ請求スルコトヲ得前項ノ規定ニ依ル事ヲ繼續ノ能否、買收價格、買收範圍其ノ他買收ノ條件ハ當事者間ノ協議ニ依ル協議調ハザルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス價格ニ關スル當事者ノ協議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二項ノ裁定中事業繼續ノ能否又ハ買收價格ニ付不服アル者ハ

裁定ノ通知アリタル日ヨリ三月内ニ適當裁判所ニ出訴スルコトヲ得

主務大臣第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ裁定又ハ認可ヲ爲サントスルトキハ電力評價委員會ノ議ヲ經ベシ

第十五條 電力設備及其ノ附屬設備ヲ出資シタル者ハ日本發送電株式會社ニ對シ出資ノ日ヨリ三年間ヲ限リ其ノ出資ニ對シ與ヘラレタル株式ヲ其ノ額面金額ヲ以テ買入ルルコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ日本發送電株式會社ハ一時其ノ株式ヲ取得スルコトヲ得

第一項ノ買入氏當ニ付テハ出資者ノ同意アル場合又ハ特別ノ事

情アル場合ニ於テハ日本發送電株式會社ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ支拂保證アル社債券ヲ以テ時價ニ依リ之ヲ交付スルコトヲ得其ノ社債券ノ發行ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ社債ニ付テハ政府ハ元利ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得

第十六條 第四條ノ規定ニ基キ日本發送電株式會社ニ出資セラレタル電力設備及其ノ附屬設備ニ付當該設備ノ所有者ガ有シタル河川、湖又ハ沼ノ使用ニ關スル權利義務並ニ道路具ノ他土地ノ占用又ハ使用ニ關スル權利義務ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ日本發送電株式會社之ヲ承繼ス

第十七條 第十三條及前條ノ場合ニ於ケル登記ニ關シ必要ナル事

項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 役員

第十八條 日本發送電株式會社ニ總裁副總裁各一人、理事五人以上及監事一人以上ヲ置ク

第十九條 總裁ハ日本發送電株式會社ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本發送電株式會社ノ事務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

監事ハ日本發送電株式會社ノ事務ヲ監督ス

第二十條 總裁及副總裁ハ勅令ヲ經テ時價ニ依リ之ヲ任命シ其ノ任期ヲ五

年トス

理事ハ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命ジ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二年トス

第二十一條 總裁、副總裁及日本發送電株式會社ノ業務ヲ分掌ス

ル理事ハ他ノ職務又ハ簡業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 電氣事業ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五年間日本發送電株式會社ノ役員ト爲リ又ハ其ノ給與ヲ受ケル事務ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認めタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四章 業務

第二十三條 日本發送電株式會社ノ爲ス電力ノ供給其ノ他ノ業務ノ運營ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 日本發送電株式會社ハ電力管理法第三條ノ建設又ハ變更ノ計畫ニ從ヒ主務大臣ノ命ズル所ニ依リ電力設備及其ノ附屬設備ノ建設又ハ變更ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ命令ヲ爲ス場合ニ於テ必要アルトキハ發電ノ爲ニスル河川、湖沼ハ濬ノ使用ニ關スル許可又ハ電力設備ノ施設ニ關スル許可若ハ認可ハ該許可又ハ認可ヲ爲シタル行政官廳ニ於テ之ガ取消ヲ爲シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ當該既設上作物ノ變更言ハ除却ヲ命ズルモノトス

第二十五條 日本發送電株式會社ハ前條ノ行政官廳ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シ相當ノ補償ヲ爲スベシ

許可又ハ認可ヲ受ケ未ダ工事ニ着手セザルモノニ付テハ前項ノ補償ハ調査又ハ測量其ノ他工事準備ノ爲支出シタル通常ノ費用ノ限度ニ於テ之ヲ爲スベシ

第二十六條 日本發送電株式會社ノ爲シタル電力設備及其ノ附屬設備ノ建設又ハ變更ニ因リ著シク利益ヲ受クル電力設備ノ所有者ハ利益ヲ受クル限度ニ於テ當該建設又ハ變更ニ關スル工事ノ費用ノ一部ヲ負擔スベシ

第二十七條 第十四條第三項及第四項ノ規定ハ第二十五條ノ補償又ハ前條ノ負擔ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 日本發送電株式會社ハ其ノ送電設備ニ接續スル發電設備ニ依リ發售シタル電力ノ買入ヲ拒ムコトヲ得ズ

第五章 特權

第二十九條 日本發送電株式會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第三十條 日本發送電株式會社ハ前法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ三倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十一條 日本發送電株式會社左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録税ノ額ハ左ノ額トス但シ登録税法ニ依リ算出シタル登録税ノ額ガ左ノ額ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル

一 設立及第四條又ハ第八條ニ規定スル出資ニ因ル資本ノ増加
拂込株金額又ハ増資拂込株金額ノ千分ノ一

二 第四條、第八條又ハ第十四條ニ規定スル出資又ハ買収ニ基
ク不動産ニ關スル權利ノ取得

不動産ノ價格ノ千分ノ三

北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ日本發送電株
式會社ニ對シ前項ニ規定スル不動産ニ關スル權利ノ取得ニ關シ
地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第三十二條 日本發送電株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得
ベキ利益金額ガ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達
セザルトキ（利益金額ナキトキ及缺損ヲ生ジタルトキヲ含ム）

ハ政府ハ初營業年度及爾後十年間ヲ限リ之ニ達セシムベキ金額
ヲ抽給スベシ

每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ拂込ミタル株金額
ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ前項ノ
規定ニ依ル抽給金ノ償還ニ充ツベシ

日本發送電株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金
額（前項ノ規定ニ依ル償還金額ヲ含マズ）ガ拂込ミタル株金額
ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ二分ノ
一以上ヲ配當準備ノ爲別ニ積立ツベシ

前項ノ規定ニ依ル積立金ハ每營業年度ニ於ケル第一項ノ規定ニ
依ル抽給金ノ計算ニ付テハ之ヲ配當シ得ベキ抽給金ト看做ス

第六章 監督及義務

第三十三條 政府ハ日本發送電株式會社ノ業務ヲ監督ス

第三十四條 定款ノ變更、利益金ノ處分、社債ノ募集、合併及解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十五條 日本發送電株式會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ電力設備若ハ其ノ附屬設備ヲ讓渡シ又ハ當該設備ヲ所有權以外ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ズ第二章ノ規定ニ依ル場合ヲ除キ電力設備又ハ其ノ附屬設備ノ取得ニ付亦同ジ

第三十六條 主務大臣ハ日本發送電株式會社監督官ヲ置キ日本發送電株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第三十七條 日本發送電株式會社監督官ハ何時ニテモ日本發送電株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本發送電株式會社監督官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ日本發送電株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本發送電株式會社監督官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十八條 主務大臣ハ日本發送電株式會社ノ決議又ハ役員ノ行為ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第七章 罰則

第三十九條 日本發送電株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁ヲ五千圓以下ノ罰料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分營業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ罰料ニ處スルコト亦同ジ

一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ許可又ハ認可ヲ受ケザルトキ

二 本法ニ基キテ爲ス命令ニ違反シタルトキ

第四十條 日本發送電株式會社ノ總裁、副總裁又ハ理事第二十一條ノ規定ニ違反シ他ノ職務又ハ商業ニ從事シタルトキハ千圓以下ノ罰料ニ處ス

第四十一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ罰料ニ付之ヲ準用ス

第四十二條 出資ノ目的タル設備ノ所有者第六條ノ規定ニ違反シ主務大臣ノ認可ヲ受ケズシテ電力設備又ハ其ノ附屬設備ノ現狀ヲ變更シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

出資ノ目的タル設備ノ所有者ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シテ前項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第一項ノ罰則ハ當該所有者法人トルトキハ取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁煙者ナレトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成中者ト同一ノ能力ヲ

有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

第四十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 政府ハ設立委員ヲ命ジ日本發送電株式會社ノ設立及
開業準備ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十五條 第五條第三項及第十一條ノ規定中日本發送電株式會
社トアルハ會社設立ノ場合ニ於テハ設立委員トス

第四十六條 第十三條ニ規定スル訴ハ日本發送電株式會社ノ成立
前ニ於テハ設立委員ヲ相手方トシテ之ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ訴ハ日本發送電株式會社ガ成立シタルトキハ中斷ス此ノ
場合ニ於テハ會社ハ訴訟手前ヲ受續グコトヲ要ス

第四十七條 設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ金錢以外ノ
財産ヲ目的トスル出資ニ對シテ適當ツベキ株式ヲ除除シタル殘
餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第四十八條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ商法第二百十
六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベ
シ

第四十九條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證
ヲ主務大臣ニ提出シ其ノ審査ヲ受クベシ

設立委員ハ前項ノ審査ヲ受ケタル後遅滯ナク第一回ノ拂込ヲ爲
サシムベシ

第五十條 前條ノ拂込アリタル後設立委員ハ遅滞ナク創立總會ヲ
招集スベシ

第五十一條 創立總會ノ決議ハ出席シタル株式引受人ノ議決權ノ
過半数ヲ以テ之ヲ爲ス

第五十二條 創立總會ニ於テハ第二十條ノ規定ニ準ジ理事候補者
ノ選舉及監事ノ選任ヲ行フベシ

第五十三條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日
本發達南株式會社總裁ニ引渡スベシ